

メルマガご愛読の皆様、こんにちは。

NPO 法人多言語広場(ピアザ)CELULAS の尾本です。(以下セルラスと表記します)

この夏、セルラスでは、大人も青少年も様々なチャレンジをしました。

その中の 1 つに「韓国の友達、アンニョンハセヨ交流」があります。

これは小 4(満 10 歳)~中 3 までの青少年が 1 週間、お隣の国である「韓国」にホームステイに行くプログラムです。

毎年セルラスでは参加者への事前研修会を 3 回行っていますが、今年は昨年お子さんを送り出した保護者の方を中心として、プログラムを大きく変更し、親子で話し合うことを中心として「心の準備」にみんなで取り組みました。

結果、ホームステイに行った子供たちだけでなく、一緒に準備をした保護者の皆さんも気づくものがたくさんあったようです。

今回はその中のお一人のお母さんの感想を掲載させていただきます。どうぞじっくりとお読みください。

『準備の中で見つけたもの』

杉並区在住 田上美紀さん (家族構成：夫・娘小 5・娘小 4・娘小 1)

「韓国ホームステイ交流に行ってみたい」と小 5 の娘が言った時、正直行かせていいものかと迷いました。何故なら私が今まで見てきた、この交流に参加する青少年は、明確な韓国に行きたい理由を持ち、大勢の前で堂々と韓国語を話し、自信に満ち溢れている子達で、そんな子達だから行けるのだと思っていました。そして、それは自分の娘の姿とはかけ離れていると感じていたからです。

【準備の始まり~不安と不満の中で~】

1 回目の研修会に参加した時、「普段の生活で必ずやろう！」という 3 つの約束をしました。それは、①挨拶をしよう ②「ありがとう」を心から言おう ③自分のことは自分でしよう ということでした。そして、毎回ディスカッションのテーマがあり、それを親子で事前に話し合ってくることと、もちろんことばの準備もありました。

しかし、それらをなかなか積極的にやろうとしない娘を見て、「行きたいと言ったのはあなたでしょ。自分から動きなさい。」と何度も言いました。なぜならその時の私は「親が手を出してしまったら意味がない」「自分から行動しないとホームステイ先でもできない」と不安に思っていたからです。

2 回目の研修会の時、その不安や不満を、一緒に子供を送り出す保護者の皆さんに話してみました。すると「行きたいと言っただけでも素晴らしいことですよ。大人でもなかなかその勇気は出ませんよね。」「初めてのホームステイなら、自分から準備できないのは当たり前。一緒にやってみては？」という話がでて、自分の中で「サポートしてもいいんだ〜。」となんだかすっきりしました。その後は二人三脚で準備を進めることができました。

【心の準備~話し合うことで見えてくるもの~】

研修会のメインが「心の準備」だったため、「家族の一員としてできること」「そもそも家族とは?」「目を見て話すことの大切さ」など、普段は話し合うことの無いような、様々なことを話し合いました。

親子で意見交換したことを、さらに研修会でみんなとシェアし、それについてディスカッションもして、理解を深めました。

シェアすることで多くの発見もあり、行く側も送り出す側も徐々に気持の準備が出来てきて、最初は見えていなかった韓国行きが、少しずつ形になっていくのを感じました。

事前に挨拶の電話をホストファミリーにした時、オンマ(※1)が「心配しないで」と日本語で言ってくれました。

それを聞いた時、オンマのこの一言にはいろんな思いが込められているような気がして、行く直前に、ストーリーブック(※2)のお話の1つである「地球家族」を娘と読みました。

そして、2つの国の現在の関係を少し話しました。

最後に娘には「出会った韓国の方がどう接してくれるのか感じておいで」と伝えました。

なぜなら彼女には、国同士の関係ではなく、人との関係を感じてきて欲しいと思ったからです。

【準備から得たもの～周りの人への感謝～】

帰国後、たくさん話を娘から聞いて、1週間のホームステイを、自分で考え、判断し、行動して懸命に乗り切ってきたのだ、ということがよく分かりました。

さらに、様々な思い出話から、ホストファミリーが娘を本当の子供のように受け入れてくれたこと、出会った韓国の皆さんもとても親切にしてくれたことがよくわかり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。最初は興味本位で参加を決めたホームステイ交流でしたが、娘にとってはお隣の国に大切な家族がもう一つでき、その家族を通して国を知るといった大きな経験に繋がりました。

娘の感想文にはこの交流に関わって下さった多くの方への感謝が最初に書かれていて、そのように思えるようになったことも成長の1つだと感じる事ができました。

今の私は子供が少しでも「行ってみたい」と言ったのであれば、ぜひ保護者のみなさんには全力で応援してほしい、送り出してあげて欲しいと思っています。

なぜなら、様々な必然の場に出会うことで子どもは成長し、その準備を一緒にやるこのプログラムだからこそ親としてその成長に気づくことができたのだと思うからです。

今回はこの交流に参加させていただき、本当にありがとうございました。

※1 オンマ：韓国語で「お母さん」のこと。

※2 ストーリーブック：セルラスオリジナルのストーリーで全てが実話。様々な国の文化や歴史、習慣などについても書かれており、現在5カ国語(英・韓・西・露・中)でそのストーリーが翻訳されている。

いかがでしたでしょうか？

簡単に「準備」といいますが、一緒に準備する中で私達親の視点も変わって、気付くものが多くなる、というのは手前味噌ではありますが、本当にセルラスの「準備」だからこそだと思いました。